

浜っ子理沙ちゃん世界に羽ばたく ～クウェート編～

明治学院大学 片岡理沙

高校時代のインドネシア留学でイスラームに興味をもったことをきっかけに、アラビア語を学ぶことでイスラームをより理解できると考え、この留学プログラムに応募しました。

日本で半年ほど勉強したアラビア語は、留学途中までスラスラ読むこともままならず、習得し易いインドネシア語と比べると尚更、アラビア語は難しい言語だと痛感しました。文字や文法、難易度も異なる言語で一见関わりがないようでも、アラビア語とインドネシア語はイスラームと深い関わりがあるためか、共通の単語が多くあり、インドネシア語が私のアラビア語学習の助けとなってくれました。言語って奥深くて面白い！と感じるとともに、私にとって馴染みのなかったクウェートの地で美しいアラビア語を学んでいるということに誇らしくも、不思議な気持ちになりました。

通っていた語学センターでは長期休暇が二度あり、その期間を利用して近隣の中東諸国に訪れました。

カタールでは外国人労働者が人口の80%ととても多く、クウェートもまた人口の半数以上が外国人労働者であることから、やはり湾岸諸国は彼らがいて成り立っていることを認識し、イランでは女性のスカーフ着用が義務付けられ、トルコのモスクのミナレットの緑色はイスラームを表すのに対し、クウェートではそれをシーア派のモスクを表していること。エジプトやヨルダンに広大な土地に歴史的建造物が多くあり、クウェートは歴史が浅く近代的でキラキラしている。このようにクウェートと比較したり、様々な体験や発見があったり、自分の目で中東諸国の一端を垣間見られたことは、とても良い経験になりました。

1年間お世話になった女子寮は常に清潔に保たれており、比較的快適に過ごすことができました。キッチンやランドリーは共有のため、寮生やスタッフの人たちと譲り合いが必要となります。ですが、各フロアに2台しかない洗濯機に洗濯物を放置する人がいることで洗濯機が使えない時があれば、日本人学生用の調理器具の紛失や調味料を勝手に使用されていることもあり、日本のような礼儀作法がないと感じました。

ルームメイトの中国人学生とは毎晩、門限のサイン後にアラビア語で会話することが日課でした。1日の出来事やアラビア語の質問、中国語や日本語を教え合ったり、時には料理を振る舞ったり。外国人学生と1年共に過ごした寮生活はクウェート留学の大切な思い出の一つです。

このクウェート留学はアラビア語やクウェートのことを学ぶだけでなく、自国日本や世界の国々を知る機会でもありました。応募から支えとなってくれた家族や友人をはじめ、明治学院大学の先生方、日本とクウェート両国の大使館員の方々、クウェート政府やクウェート大学、多くの方々のご支援があり、クウェート留学を終えることができました。感謝しております。

今後もイスラームやアラビア語の学習を続け、この留学での経験を将来クウェートに還元できるよう努めたいと思います。ありがとうございました。